

健康食品の正しい知識の普及に関する特別委員会

目 次

広島県民の健康食品に関する意識調査

I.	緒	言
II.	方	法
III.	結	果
IV.	考	察
V.	結	語

健康食品の正しい知識の普及に関する特別委員会

(平成 17 年度)

広島県民の健康食品に関する意識調査

広島県地域保健対策協議会健康食品の正しい知識の普及に関する特別委員会

委員長 木平 健治

I. 緒 言

身の回りには健康によいと称して販売されているさまざまな健康食品が流通している。しかし、なかには医薬品成分が含まれていたこと等で、摂取により健康被害を起こした事例も報告されている^{1)~6)}。そこで、広島県地域保健対策協議会・健康食品の正しい知識の普及に関する特別委員会では、医師や薬剤師など医療関係者が取り組む健康食品の正しい知識の普及・啓発に役立てるため、広島県民にアンケート調査を実施し、健康食品の使用状況や購入目的、どのような情報が必要かなどを調査したので報告する。

II. 方 法

(1) 調査方法

図1の「健康食品について聞かせて！アンケート」による。

(2) 調査対象、調査期間

- ア 県民公開講座「健康食品の正しい知識」の参加者、平成17年10月10日(月)
- イ 広島市佐伯区・西区区民まつり参加者、平成17年11月13日(日)
- ウ 広島県内の薬局来店者、平成17年11月10日(木)~平成17年11月18日(金)
- エ 福山大学薬学部学生、平成17年11月11日(金)

(3) 有効回答者数(表1)

回答は県民公開講座の参加者393名、区民まつり参加者330名、薬局来店者786名、薬学部学生223名の合計1,732名から得られた。年齢別では、19歳以下が3.7%、20~39歳が34.1%、40~59歳が32.3%、60~79歳が27.6%、80歳以上が2.4%であった。

健康食品について聞かせて！アンケート

■広島県地域保健対策協議会・健康食品の正しい知識の普及に関する特別委員会 [2005.11]

身の回りには健康によいと称して売られているさまざまな健康食品が流通しています。県民の皆様には、健康食品の使用状況や購入目的、また、どのような情報が必要かを御専門し、医師や薬剤師など医療関係者が取り組む健康食品の正しい知識の普及・啓発に役立てていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力をお願いします。

◆あなたの該当するところにチェック(✓)をしてください。
【年齢】19歳 20~39歳 40~59歳 60~79歳 80歳~
【性別】男性 女性

あなたは健康食品に興味、関心がありますか。(該当するところにチェック(✓)又は記入してください)
□ある □ない

あなたは健康食品を使ったことがありますか。
□ある【あると答えた方は、3以降の質問へ進んでください】
□ない【ないと答えた方は、8と9の質問にお答えください】

あなたは現在、健康食品を使用していますか。
□毎日 □時々 □使用していません
差し支えなければ、現在使用されている健康食品を記入してください。(商品名でもよい)
()

健康食品を使用する理由は何ですか。(複数回答可)
□健康維持・増進のため □栄養補給のため □疲労回復のため □美容のため
□ダイエットのため □病気の予防や治療のため □健康な性生活のため
□その他 ()
差し支えなければ、現在治療中の病気があれば主な病名を記入してください。
()

健康食品の購入時に参考にする情報はどれですか。(複数回答可)
□商品説明書 □店頭での説明 □新聞チラシ □TV □雑誌・書籍 □インターネット
□知人の勧め □その他 ()

健康食品はどこで入手しますか。(複数回答可)
□薬局 □スーパー・コンビニ □通信販売(新聞・TV) □通信販売(雑誌・書籍)
□訪問販売 □インターネット □知人・家族 □個人輸入 □その他 ()

健康食品を利用する際に注意していることはありますか。
□医師・薬剤師に相談する □摂取目安量、注意事項などの商品情報 □健康被害の情報
□薬とは一緒に使用しない □体調 □特に注意していることはない

→ 健康食品に対してどのような印象をお持ちですか。(複数回答可)
□健康によい □病気の予防になる □栄養素が効果的に摂取できる □食品だから薬より安全
□副作用がない □健康食品は信じられない □よくわからない
□その他 ()

→ 健康食品に対してどのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)
□健康食品の安全性に関する情報 □医薬品と健康食品の飲み合わせ □効能・効果
□注意が必要な広告事例 □健康被害の事例
□その他 ()

***** ご協力ありがとうございました。*****

図1 アンケート様式

調査対象区分により年齢構成はかなり異なっていた。平均年齢は薬学生がもっとも若く、次いで薬局来店者、区民まつり参加者、公開講座の参加者の順で、特に公開講座の参加者では60歳以上が70%であった。

性別では、男性が28.7%、女性が71.3%であった。女性が70%を越えており、偏りが認められたが、いずれの調査対象、年齢区分でも女性が70%前後であり、この分類では大きな差は認められなかった。

表1 有効回答者数

対象	有効回答者数	年齢別					性別	
		～19歳	20～39歳	40～59歳	60～79歳	80歳～	男性	女性
公開講座	393	0	27	96	240	19	92	165
区民まつり	330	6	55	105	116	5	84	207
薬局来店	786	2	320	330	100	15	193	546
薬学生	223	53	161	2	0	0	62	152
合計	1,732	61	563	533	456	39	431	1,070

以上のことから、集計に当たっては、対象別、年齢別、性別による分析も行うこととした。また、県民公開講座の参加者のうち、医療関係者と回答した人も別区分として分析した。

Ⅲ. 結 果

(1) 「健康食品」に対する関心度 (図2)

約75%が「健康食品」に対して興味、関心を持っていた。いずれの調査対象区分でも関心を持っている人が65%を越えていた。特に県民公開講座の参加者の関心度が高かった。

年齢が高くなるほど、興味・関心の割合は増加していたが、もっとも低い19歳以下でも65%を越えていた。男性よりも女性の関心度が少し高かった。

(2) 「健康食品」の使用経験 (図3)

約74%が「健康食品」の使用経験があった。県民

公開講座の参加者では80%を越えていた。

年齢が高くなるほど、使用経験の割合は増加していた。男性よりも女性の使用経験度が少し高かった。関心のある人でも15%程度は使用経験がなく、逆に関心のない人でも25%程度は使用経験があった。

(1)の興味、関心の割合と平行な関係になっていた。

(3) 「健康食品」の使用頻度 (図4)

「毎日使用している」が43.9%、「時々使用している」が36.3%、「使用していない」が17.7%であった。県民公開講座の参加者では毎日使用が60%を越えていた。年齢が若いほど毎日使用の割合は下がっていた。男女の差はほとんどなかった。関心のある人では約半数が毎日使用しているが、関心のない人では約半数が現在は使用していなかった。

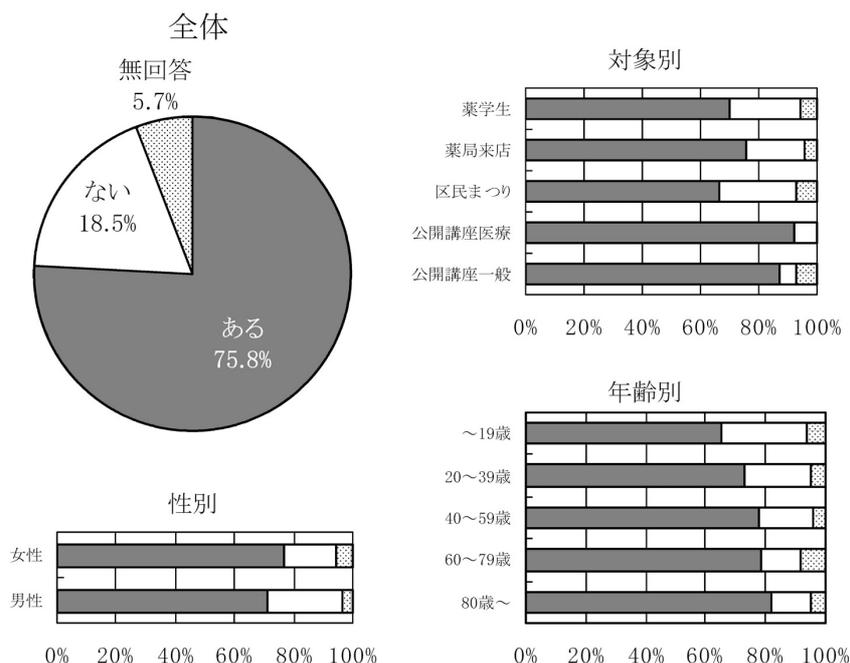


図2 「健康食品」に対する関心度 (回答者 1,633名 無回答者 99名)

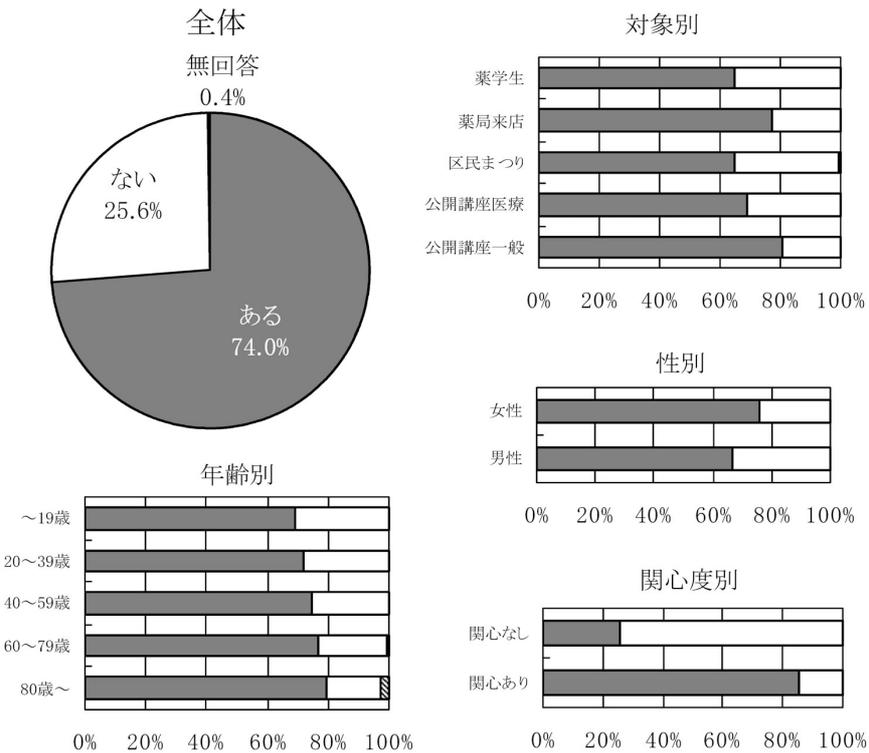


図3 「健康食品」の使用経験（回答者 1,726名 無回答者 6名）

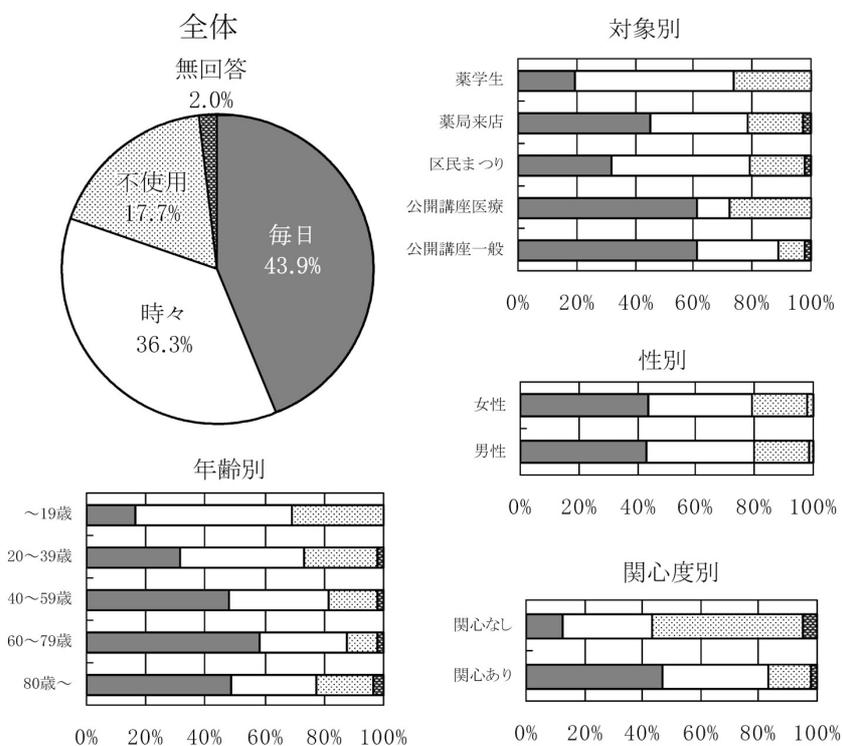


図4 「健康食品」の使用頻度（「健康食品」の使用経験がある1,282名の回答）

【現在使用している健康食品】

現在使用している「健康食品」を自由回答で、商品名でも可としたため、一人で多くの「健康食品」を記入した人も多かった。記入のあった「健康食品」についてそれぞれの延べ件数を全体、調査対象区分ごとに集計し、上位 20 種を表 2 に示した。記入のあった「健康食品」は多種多様であり、複数の成分を含むものもあったが、代表的なものに纏めた。

年齢構成のもっとも若い薬学生では、回答率が低かったが、使用している「健康食品」の大部分はビタミン、ミネラルであった。公開講座参加者は年齢構成がもっとも高く、「健康食品」に関心を持っている人が多いことを反映して、回答率も高く、色々な種類の健康食品を使用していた。滋養強壮薬や総合ビタミン剤といった医薬品を、使用している「健康食品」として記載している例もあった。

(4) 「健康食品」を使用する理由 (図 5)

全体では、「健康維持・増進のため」(62.5%) がもっとも多く、「栄養補給のため」(28.1%) や「疲労回復のため」(26.2%) が続いた。「病気の予防や治療のため」という回答も多かった (21.6%)。若年齢層では「栄養補給のため」が多く、年齢の増加と

ともに、「健康維持・増進のため」や「病気の予防や治療のため」が増える傾向にあった。また、「美容のため」は 20~39 歳の女性に多かった。男性は「病気の予防や治療のため」、女性は「美容のため」の割合が高かった。「健康食品」に関心のある人は、「健康維持・増進のため」、「病気の予防や治療のため」の割合が高く、関心のない人は「栄養補給のため」の割合が高かった。毎日使用している人は、「健康維持・増進のため」、「病気の予防や治療のため」の割合が高かった。

(5) 「健康食品」の購入時に参考にする情報 (図 6)

全体では、「商品説明書」(33.8%) がもっとも多く、「知人の勧め」(30.8%) や「雑誌・書籍」(24.2%) が、それに続いた。「インターネット」での情報収集は少なかった。「知人の勧め」はどの対象、年齢層でも安定して多く、特に 60~79 歳の女性に多かった。若年齢層では「商品説明書」「店頭での説明」の割合が多かった。性別、使用頻度による違いによる大きな差はなかったが、男性は「新聞チラシ」、女性は「知人の勧め」の割合が高く、毎日使用している人は、「商品説明書」、「知人の勧め」の割合が高い傾向にあった。

表 2 使用している健康食品とその件数

健康食品名	全体	公開講座	薬局来店	区民まつり	薬学生
	件数 (順位)				
マルチビタミン	97 (1)	22 (3)	45 (3)	10 (1)	20 (1)
CoQ10	80 (2)	24 (2)	48 (2)	7 (3)	1 (5)
酢 (黒酢・玄米酢等)	76 (3)	20 (4)	51 (1)	5 (5)	0
ビタミン C	62 (4)	19 (5)	33 (4)	4 (9)	6 (2)
青汁・青麦若葉	49 (5)	19 (5)	25 (6)	5 (5)	0
ローヤルゼリー	47 (6)	26 (1)	13 (13)	8 (2)	0
ブルーベリーエキス	40 (7)	12 (11)	23 (7)	5 (5)	0
コラーゲン	39 (8)	13 (10)	26 (5)	0	0
カルシウム	38 (9)	14 (8)	17 (11)	4 (9)	3 (3)
ニンニク	28 (10)	16 (7)	6 (25)	5 (5)	1 (5)
クロレラ	26 (11)	6 (16)	18 (9)	1 (22)	1 (5)
プロポリス	25 (12)	14 (8)	4 (29)	6 (4)	1 (5)
ビタミン E	23 (13)	8 (12)	11 (15)	4 (9)	0
茶 (各種)	23 (14)	4 (23)	19 (8)	0	0
グルコサミン	22 (15)	8 (12)	12 (14)	2 (15)	0
リボ酸	22 (16)	3 (28)	18 (9)	0	1 (5)
ミネラル	20 (17)	7 (16)	9 (18)	2 (15)	2 (4)
イチョウ葉エキス	20 (18)	6 (16)	11 (15)	3 (13)	0
コンドロイチン	20 (19)	8 (12)	11 (15)	1 (22)	0
ウコン	17 (20)	5 (22)	9 (18)	3 (13)	0
その他	354	129	189	30	6

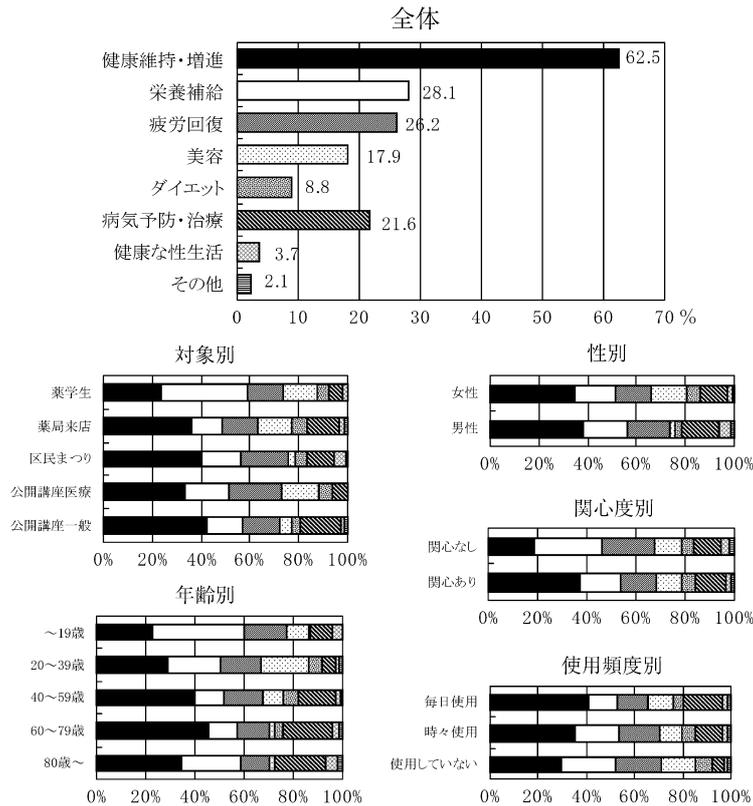


図5 健康食品を使用する理由（「健康食品」の使用経験がある1,282名の回答）
 全体図は回答者を100とした時のそれぞれの回答項目の割合（%）を示す。
 その他の図は各区分の延べ項目数を100とした時のそれぞれの項目の割合（%）を示す。

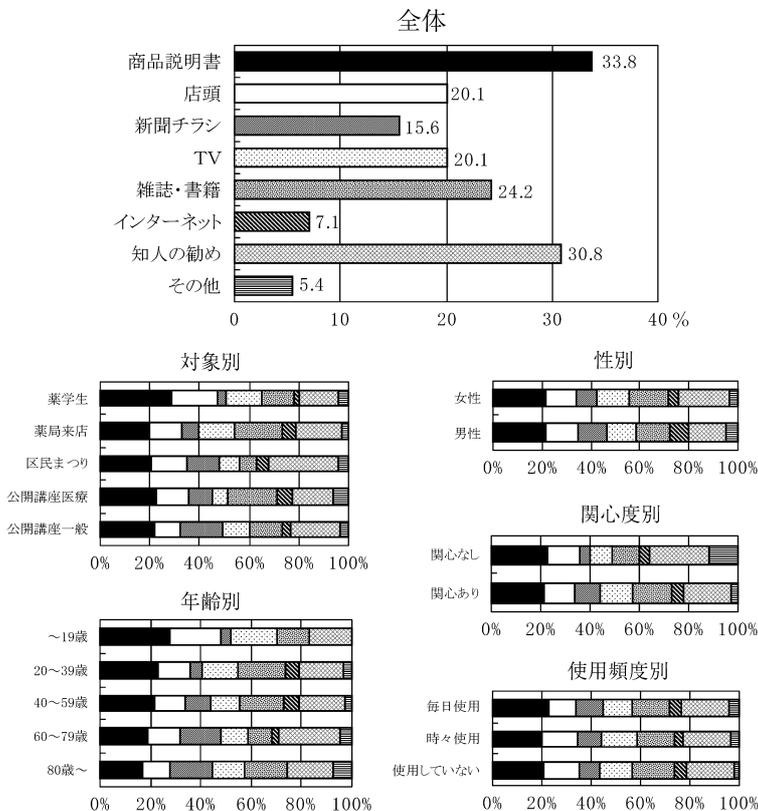


図6 健康食品の購入時に参考にする情報（「健康食品」の利用経験がある1,282名の回答）
 全体図は回答者を100とした時のそれぞれの回答項目の割合（%）を示す。
 その他の図は各区分の延べ項目数を100とした時のそれぞれの項目の割合（%）を示す。

(6) 「健康食品」の入手先 (図7)

全体では、「薬局」で入手するが55.7%と群を抜いていた。次に多かったのは、「知人・家族」(16.6%)であった。「訪問販売」、「インターネット」、「個人輸入」は少なかった。若年齢層ほど「薬局」の比率が高かった。「通信販売」は高年齢層で比率が高かった。男性は「スーパー・コンビニ」で、女性は「知人・家族」から入手する割合が高かった。毎日使用している人は、「通信販売」、「知人・家族」から入手する割合が高かった。「健康食品」に関心のある人は「薬局」、「通信販売」で入手する割合が高く、関心のない人は「知人・家族」から入手する割合が高かった。

(7) 「健康食品」を利用する際に注意していること (図8)

全体では、「摂取目安量、注意事項などの商品情報」(48.3%)がもっとも多かったが、その比率は年齢の増加と共に減少する傾向にあった。これに対し、「医師・薬剤師に相談する」や「健康被害の情報」が、年齢の増加と共に増加する傾向にあった。「特に注意していることはない」が2番目に多く、若年齢

層、関心のない人で比率が高かった。男性は「医師・薬剤師に相談する」、女性は「摂取目安量、注意事項などの商品情報」、「体調」に注意する割合が高かった。

(8) 「健康食品」に対する印象 (図9)

全体では、「健康によい」(35.6%)と「栄養素が効果的に摂取できる」(35.0%)が、ほぼ同程度で多かった。「食品だから薬より安全」が11.3%、「副作用がない」が6.5%あった。若年齢層では「栄養素が効果的に摂取できる」が、高年齢層では「病気の予防になる」、「副作用がない」の割合が高かった。男性は「健康によい」、「信じられない」の割合が、女性は「栄養素が効果的に摂取できる」の割合が高かった。「健康食品」に関心のある人、使用経験のある人は、「健康によい」、「栄養素が効果的に摂取できる」とする人が多かった。一方、関心のない人、使用したことがない人では「健康食品は信じられない」、「よくわからない」とする比率が大きく「健康食品」に懐疑的である人が多かった。その他の回答としては、色々な記載があったが、表3に示したように「健康食品」に肯定的なもの、否定的なもの、その中間

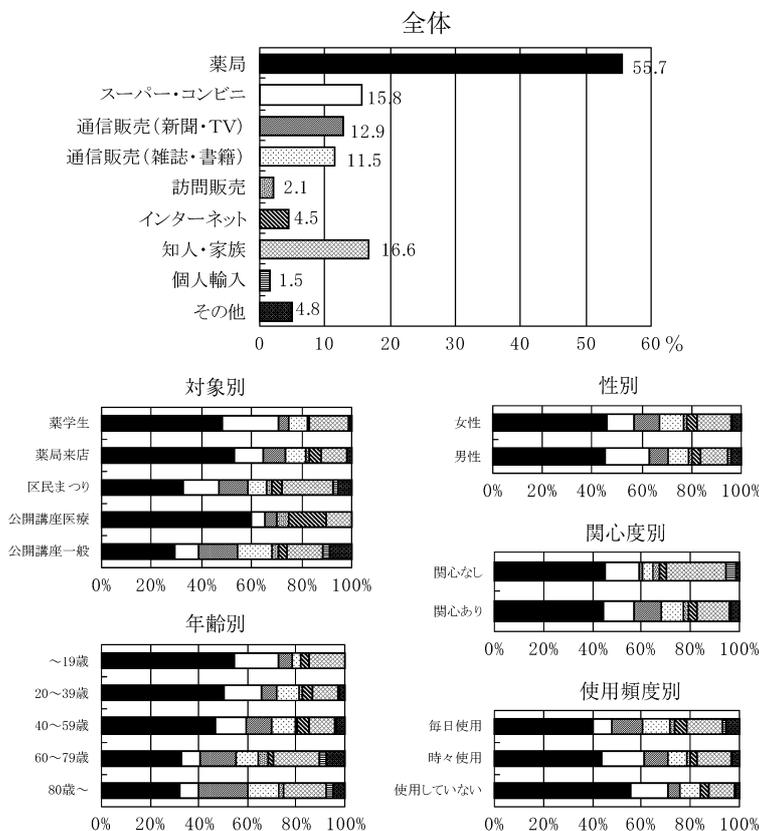


図7 健康食品の入手場所 (「健康食品」の利用経験がある1,282名の回答) 全体図は回答者を100とした時のそれぞれの回答項目の割合(%)を示す。その他の図は各区分の延べ項目数を100とした時のそれぞれの項目の割合(%)を示す。

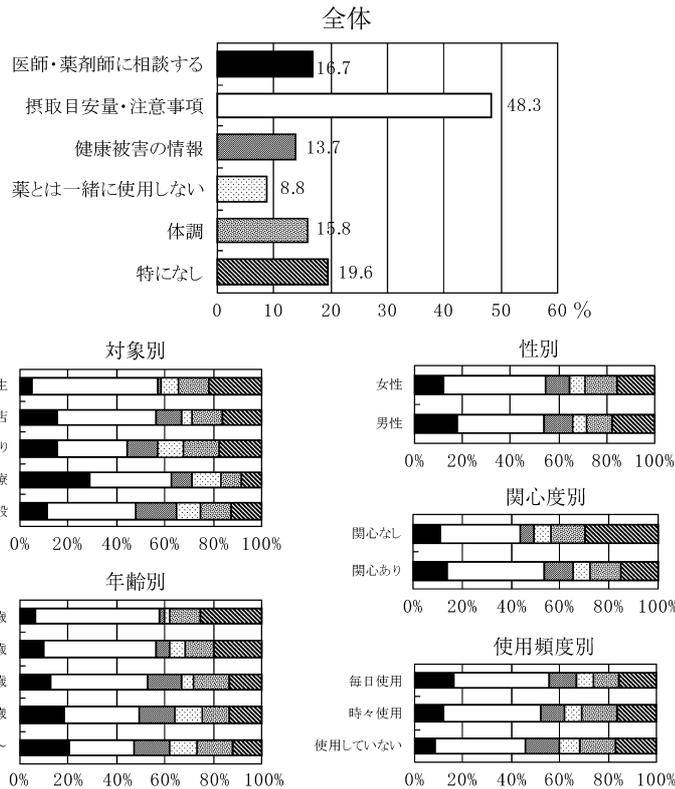


図8 健康食品を利用する際に注意していること（「健康食品」の利用経験がある1,282名の回答）
 全体図は回答者を100とした時のそれぞれの回答項目の割合（%）を示す。
 その他の図は各区分の延べ項目数を100とした時のそれぞれの項目の割合（%）を示す。

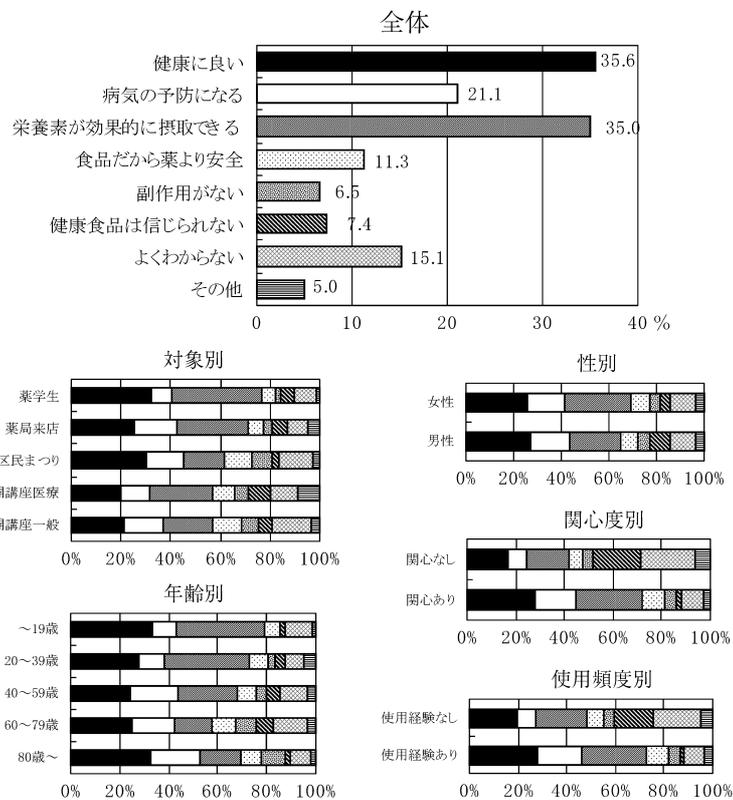


図9 健康食品に対する印象（アンケート回答者 1,732名の回答）
 全体図は回答者を100とした時のそれぞれの回答項目の割合（%）を示す。
 その他の図は各区分の延べ項目数を100とした時のそれぞれの項目の割合（%）を示す。

表3 健康食品に対する印象（その他）

肯定的な意見	中間的な意見	否定的な意見
<ul style="list-style-type: none"> • 今の健康を保つことができる • 病院医師等より信頼している • 体が楽になる • やせられる • 有効なものもある • 中には効果の良いものもある • 医薬品にないものがある • 体調が整う • 食品と思えないほど効果のあるものもある • 薬をのむ程でないときに使う • 飲まないよりは良い • 体がだるくない、疲れがたまりにくい • 体質によりそれぞれ違った結果がでるのでは • 食事からは基準の量はとれない • 食事ではとれないものが補給できる • 健康を補う補助食品 • 日常で不足しているものを補う位の感じ • 手軽に試せる • 手間が省けて良い 	<ul style="list-style-type: none"> • 医薬品メーカー（ブランド）を信じる • 信頼できる大手メーカーのみ使用 • 本当に信頼できるものしか信じていない • 内容をよくチェックすれば安全 • 効果的な利用をしないとだめ • ある程度値段の高いものじゃないと効果が得られないような気がする • 本当にいい健康食品はハデな宣伝をしない • 選択が必要 • 有効なものとはそうでないものを見極めが大切 • 効果は期待していないが少しでも体にいいと思うので • 気休め・気分的安心 • これといった効果は感じられないが、何となく摂取している • 種類によっては注意するものがある • 半信半疑 • 摂り方により薬にも毒にもなる • 他の薬との関係に注意 • 量を少なめにとっている • あまり信用しないようにしている • 安全と思う反面害について不安 • 栄養素の補填（効果的かは不明） 	<ul style="list-style-type: none"> • うさんくさい • 食品 • むだ • 特に必要と思わない • 危険なものが多い • 食品だから薬より安全はうそ • あまり効果なし • 食品よりも効果的に栄養が取れるとは思わない • 自分の体の免疫機能が落ちる気がする • いろいろな会社が販売しているので、信用性に疑問 • 効能効果に過大な宣伝がある • テレビなどのマスコミ情報で影響されやすい • 値段が高い • 健康がすべてだとは思わない • 栄養素はまず食事から • 情報が少ない • 興味なし • 製造・販売会社がわからない • 逆にそればかり食べて栄養が偏りそう • 大型のドラッグストアにあまりにも効果があるように出回りすぎ • 健康食品の基準が分からない • 定義があいまい

のものの三つに分類され、「健康食品」に対してさまざまな意見があることがうかがわれた。

(9) 「健康食品」についての必要な情報（図10）

全体では、「健康食品の安全性に関する情報」(61.8%) がもっとも多く、「医薬品と健康食品の飲み合わせ」(48.9%) や「効能・効果」(42.7%) が続いたが、5項目とも必要とする人が149名(8.5%)もいた。年齢の増加と共に「健康食品の安全性に関する情報」が増え、「効能・効果」は減少した。調査対象、性別、関心の割合、使用経験による違いによる大きな差はなかったが、男性は「効能・効果」、女性は「安全性に関する情報」の割合が高く、使用したことのない人は「注意が必要な広告事例」、「健康被害の事例」の情報を必要とする割合が高い傾向にあった。関心のある人は、情報を必要とする割合が高かった。

(10) 「健康食品」の口コミによる広がり

「健康食品」の購入時に参考にする情報としては、2番目に「知人の勧め」が多かった(395名(30.8%))が、このうち「知人の勧め」と単独で回答した人は177名(10.2%)であった。この単独で回答し

た人のうち、問6で「健康食品」の入手先として、「知人・家族」とした人は、91名(51.4%)と半数を超えていた(図11)。

また、「健康食品」の入手先として、「知人・家族」をあげた人は213名(16.6%)で、「知人・家族」と単独で回答した人は126名(7.3%)であった。この単独で回答した人のうち、問5で「健康食品」の購入時に参考にする情報として、「知人の勧め」とした人は、98名(77.8%)と8割近くを占めていた(図12)。さらに、これらの人の健康食品を使用する理由は「健康維持・増進のため」が多かった。

IV. 考 察

「健康食品」に対する興味・関心は、無回答の人を集計に含めても約75%が「あり」と回答していた。また、使用経験もほぼ同率で「あり」としており、若年齢層ほど「あり」の率は下がるものの、65%を越えていて、健康食品が一般によく浸透していることがうかがわれた。

しかし、その使用目的に関しては、年齢により大きく異なっており、若年齢層では、大部分がビタミ

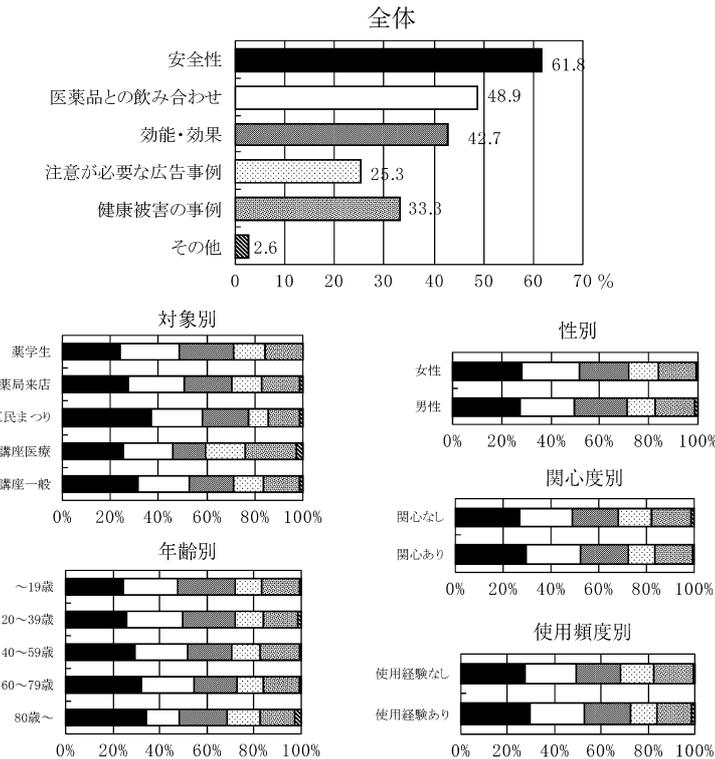


図10 健康食品に対して必要な情報（アンケート回答者 1,732名の回答）
 全体図は回答者を100とした時のそれぞれの回答項目の割合（%）を示す。
 その他の図は各区分の延べ項目数を100とした時のそれぞれの項目の割合（%）を示す。

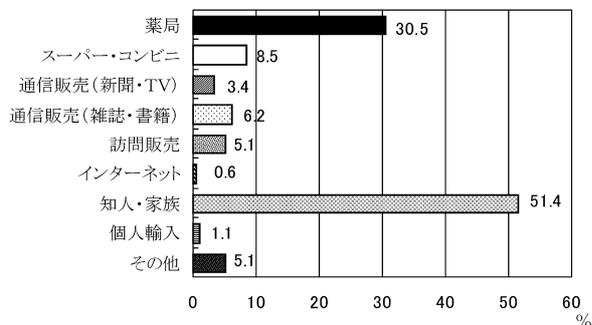


図11 健康食品の購入時に参考にする情報を知人の勧めとした人の健康食品の入手先

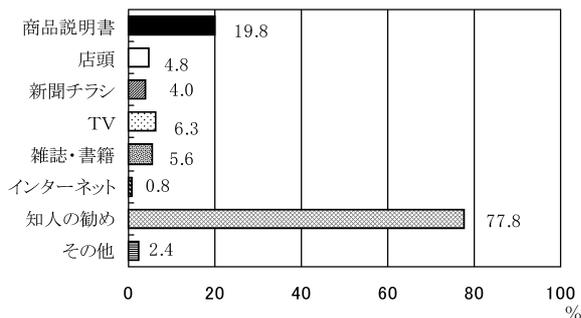


図12 健康食品の入手先を知人・家族とした人の健康食品の購入時に参考にする情報

ン、ミネラルなどの「栄養補給のため」であったが、年齢の増加とともに、「健康維持・増進のため」や「病気の予防や治療のため」が増え、色々な種類の健康食品を使用するようになる傾向がうかがえた。「病気の予防や治療のため」という回答は21.6%もあり、「健康食品」を医薬品のようにとらえている人がかなり存在することがうかがえた。また、これに関連して、使用している健康食品として滋養強壮薬や総合ビタミン剤といった医薬品を記載している例もあり、医薬品と健康食品の境目がわかりにくくなっていることにも注意が必要と考えられる。

性別による違いは、「美容のため」、「ダイエットのため」が20~39歳の女性に多かったほか、男性は女性より少し関心が低く、「信じられない」など懐疑的である人の割合が少し高い傾向にあったが、全般に性別による大きな違いは認められなかった。

「健康食品」の購入時に参考にする情報としては、もっとも多かった「商品説明書」(33.8%)と同じくらい「知人の勧め」(30.8%)が多く、特に60~79歳の女性に多かったが、どの年齢層でも同じ程度の割合であった。また、このことに関連して、「健康食品」の入手先として、「知人・家族」(16.6%)と回

答した人が多く、口コミによる広がり大きなウエートを占めていることがうかがわれた。

以上のことから、健康維持・増進のための「健康食品」を「知人の勧め」で「知人・家族」から入手するいわゆる口コミルートが「健康食品」の広がり大きなウエートを占めていることがうかがわれた。

「健康食品」の入手先では「薬局」(55.7%)が群を抜いていたが、調査対象に薬局来店者が4割以上もいることが大きく影響していることがうかがわれた。また、若年齢層ほど「薬局」の比率が高かったが、これは、使用している「健康食品」の種類との関連がうかがわれた。

「健康食品」を利用する際に注意していることでは約半数の人が「摂取目安量・注意事項などの商品情報」としていたが、その比率は年齢の増加とともに減少し、「医師・薬剤師に相談する」や「健康被害の情報」が増加する傾向にあり、これも「健康食品」を使用する理由と関連があると考えられる。

「健康食品」に対する印象は、関心度、使用経験の違いによって大きく異なっており、関心のある人、使用している人では、「健康維持・増進のため」、「病気の予防や治療のため」の割合が高く、肯定的である人が多い反面、関心のない人、使用したことがない人では「健康食品は信じられない」、「よくわからない」とする比率が高く、健康食品に懐疑的である人が多かった。また、「食品だから薬より安全」(11.3%)、「副作用がない」(6.5%)といった間違っただけの理解をしている人もかなりいた。総じて「健康食品」に対しては、肯定的なもの、否定的なもの、その中間のものなどさまざまな印象があることがうかがわれたが、肯定的な印象を持っている人が大半を占めていた。

「健康食品」に関する情報は、多くの人が色々な情報を必要としており、今後どのような内容をどう発信していくのが重要であると考えられる。

V. 結 語

(1) 「健康食品」に対する興味・関心は、約75%

が「あり」と回答しており、「健康食品」が一般によく浸透していることがうかがわれた。しかし、その使用する理由は、年齢により大きく異なっていた。また、「健康食品」を医薬品のように捕らえている人がかなり存在することがうかがえた。

(2) 性別による大きな違いは認められなかった。

(3) 「健康食品」の購入時に参考にする情報や「健康食品」の入手には、口コミが大きなウエートを占めていることがうかがわれた。

(4) 「健康食品」に対する印象は、関心、使用経験のある人は肯定的である人が多い反面、関心、使用経験のない人では懐疑的である人が多かったが、全体としては、肯定的な印象を持っている人が大半を占めていた。

(5) 「健康食品」に関する情報は、多くの人が色々な情報を必要としていた。

文 献

- 1) 厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課：中国製ダイエット用健康食品（未承認医薬品）による健康被害事例等。報道発表資料，平成17年11月22日。
- 2) 厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課：ダイエット用食品「天天素（天天素清脂こう嚢）」（マジンドール等を含有する無承認無許可医薬品）によると疑われる健康被害について。報道発表資料，平成17年5月27日。
- 3) 厚生労働省食品安全部 新開発食品保健対策室：「いわゆる健康食品」による健康被害事例。報道発表資料，平成17年3月11日。
- 4) 中国製ダイエット用健康食品（未承認医薬品）に関する調査結果（概要）：厚生労働省医薬局監視指導・麻薬対策課（平成15年2月12日）。
- 5) 「個人輸入した未承認医薬品等の服用後に発生した健康被害事例について」平成14年7月12日，厚生労働省医薬局監視指導・麻薬対策課。
- 6) 中国未承認医薬品による健康被害について（平成14年7月22日医薬監麻発第0722008号）。

広島県地域保健対策協議会健康食品の正しい知識の普及に関する特別委員会

委員長	木平 健治	広島大学病院薬剤部
委員	有田 健一	広島県医師会
	大久保雅通	久安外科・内科医院
	小澤孝一郎	広島大学大学院医歯薬学総合研究科
	金森 久幸	広島県福祉保健部
	神田 博史	広島大学医学部附属薬用植物園
	宗 文彦	広島県薬剤師会
	田坂 佳千	広島市医師会
	田中 秀雄	広島市保健所
	村上 行雄	広島県福祉保健部
	森井 紀夫	広島県薬剤師会
	山崎 健次	広島県歯科医師会
	籾池千恵子	広島県保健環境センター
	行武 理江	広島県警察職員診療所